

**質の高い実践や研究で
地域の幼児教育の質を支える
国公幼**

**全国国公立幼稚園・こども園長会
会長 新山 裕之**

子ども・子育て支援新制度は、「量」と「質」の両面から子育てを社会全体で支えるために生まれ、令和元年10月からは、幼児教育・保育の無償化が始まりました。しかし、今回の無償化における保護者の関心は、経済的な負担軽減と長時間保育に集中しています。この点については、国公立の園は、3年保育や預かり保育などの保護者のニーズに十分に答えられていない面もあり、質の高い実践をしているにもかかわらず、次年度以降の園児数や園運営に大きな影響が出始めています。

そのような状況の中、全国の7ブロックの園長先生方から、内容の濃い実践・研究報告をお寄せいただきました。幼児教育の質を高めるために欠かせない、保育を振り返り実践を評価するための工夫、未来を見据えたカリキュラム・マネジメントについては時機を得た内容です。園の形態が多様化する中で、多様な職種と勤務体制の中で研修を充実させる工夫や資質向上のための取り組み、そして日々の実践の中での幼児の育ちと学びをテーマとした研究など、さすが国公幼と言える充実した内容のものばかりです。

幼児教育において本当に大切にすべきなのは、実践の質です。国公幼という各地・全国の組織があればこそ、このような質の高い研究集録を全ての会員の園長先生方にお届けすることができます。ぜひ各園の園経営の改善にご活用いただきたいと思います。

私たちは、未来の日本を担う人材を育てる仕事をしています。各地域の幼児教育・保育の行政担当の皆様に対して、地域の魅力を生かした実践を続け、2～30年後に各地域を支える人材としての心の根っこを育て、地域の幼児教育の核となっている国公幼の存在意義を発信することにも、この研究集録をご活用いただければ幸いです。

公務ご多用の中、実践・研究報告をご提供いただいた園長先生方に深く感謝申し上げます。